



SHINSHU PHOTO



①メインコントロールルーム。スタッフたちは緊張の中、打ち上げを待つ ②打ち上げの瞬間

新型エネルギーを求めて

「嫦娥1号」には四つの主要ミッションがある。一つ目は、月面の立体映像を撮影すること。二つ目は、月面の有用元素の含有量と分布状況を分析すること。三つ目は、月の土壌の特性を観測すること。そして四つ目は、地球から月までの宇宙空間環境を調査することだ。

これらのミッションの中の課題の多くは、まだどの国も手をつけた

「嫦娥1号」の月探査は、中国の宇宙観測の第一歩に過ぎない。計画によると、中国の月探査プロジェクトは、次の三段階に分かれている。①月周回軌道を飛行②二〇一二年前後に月面への軟着陸を実現③二〇一七年までに月の土壌と岩石を採集して地

### 宇宙観測の第一歩

ある予測によると、月面上には百万〜三百万トンの「ヘリウム3」があり、人類全体の約二万分のエネルギー需要を満たすことができるという。

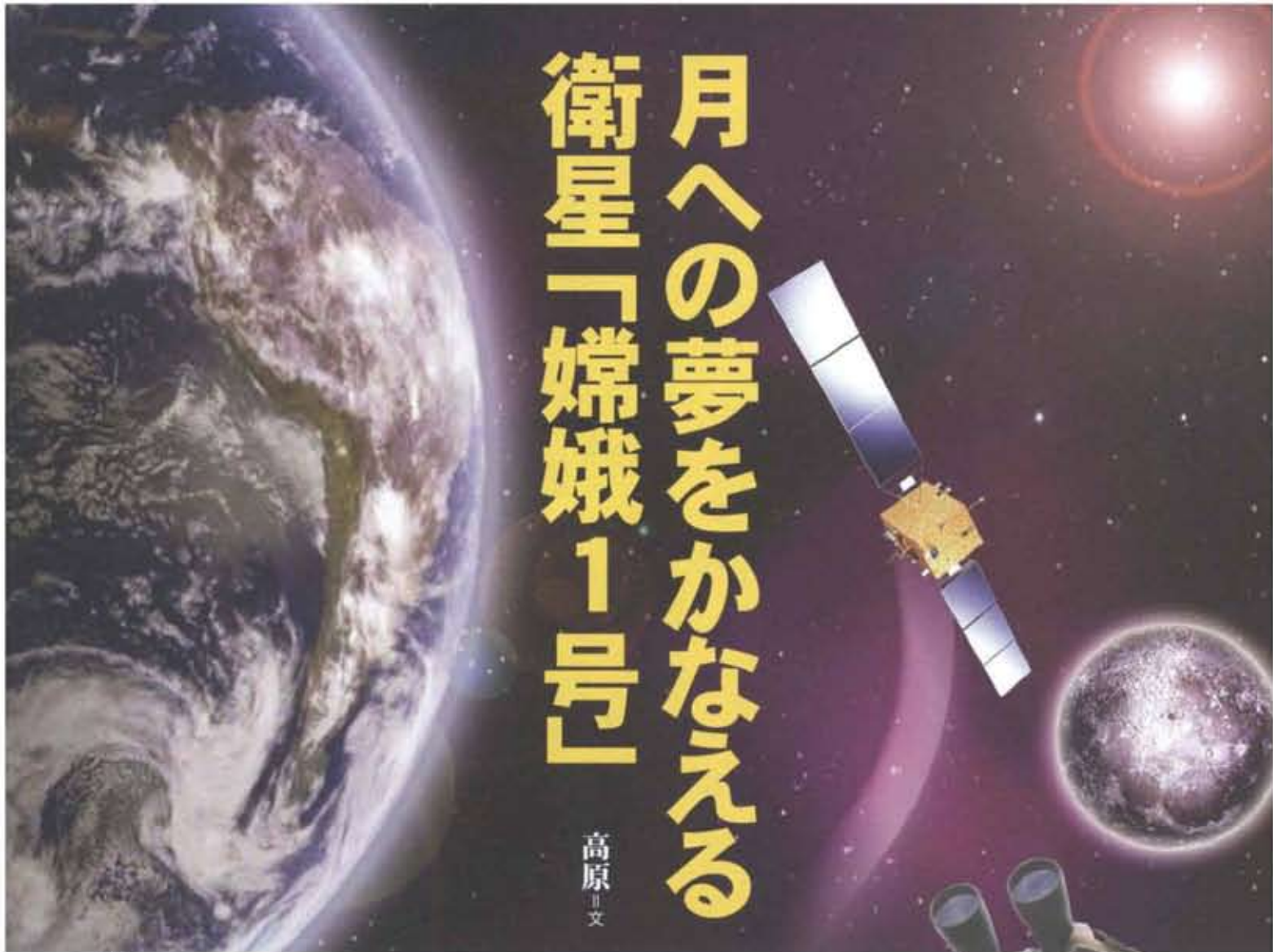
ことがないか、完全には遂行されていない。たとえば、月全体の立体映像はまだ公表されたことがないし、月全体の土壌の特性と厚さの観測もまだ行われていない。米国はすでに五種類の有用元素の分布状況を公表しているが、今回「嫦娥1号」は、十四種類の分布状況を調査する予定だ。

このほか、「嫦娥1号」のもっとも注目されているミッションは、月面上の「ヘリウム3」の観測。「ヘリウム3」は、核融合発電の燃料として利用でき、百トンで全世界の一年分の発電需要を満たすことができる。また、環境にもやさしいため、将来のエネルギー問題を解決する重要な資源だとみなされている。地球上にはほとんどなく、開発も難しい「ヘリウム3」だが、月には大気層がないため、太陽風によって月面上に大量に運ばれてくる。

球に持って帰る。もっとも注目されているのは、有人の月面着陸の実現はいつかということだが、これについてはまだ具体的な計画はない。プロジェクトの総指揮官である榮恩傑さんは、「今回の

打ち上げは、月への片道切符に過ぎません」と笑う。

このプロジェクトを実現させた後、中国は月をジャンプ台としてさらに広い宇宙空間で科学的観測を進める予定だ。



高原 文

十月二十四日、中国初の月探査衛星「嫦娥1号」が打ち上げに成功した。「嫦娥」という名前は、中国でよく知られる伝説「嫦娥、月に奔る」にちなんで付けられたもの。中国人にとって、月に対する憧れと想像が掻き立てられる伝説だ。

五百年前の明の時代、万虎という名の勇士が、四十七本の矢をくりつけて飛ばすという簡易ロケットを使って宇宙に飛び立とうと試み、命を落とした。世界の科学者たちはこのことを忘れず、万虎は「世界で初めてロケットに乗って宇宙へ飛び立とうとした人」と認識されている。月面には彼の名を冠したクレーターもある。

そして今日、「嫦娥1号」が月に向かって打ち上げられた。先人の宇宙への憧れと持続可能な発展のための資源を探求するという人類の願いを載せて。

四川省南部の西昌衛星発射センター近くの展望台で「嫦娥1号」の打ち上げを見守る父子



### 「嫦娥1号」の4つの重要段階

